

## 関西支部「昭和61年度第3回例会」の報告

第3回例会は海洋気象学会と共催で、昭和62年1月30日神戸海洋気象台で開かれ、約40名が参加しました。テーマは「海洋と気象」で秋山神戸海洋気象台長（海洋気象学会理事長）が開会のあいさつを述べられたあと、11題の研究発表があり海上気象・海洋・気象など多彩な内容で、質問・討論が活発に行われ盛会でした。

1. 明石海峡の霧 加藤真二郎（神戸海洋気象台）
2. 1986年7月28日～29日の晴霧について  
泉 勇（高松地方気象台）
3. 神戸港の潮汐 林 紘二（神戸海洋気象台）
4. 高松検潮所水温の変動の周期性と気象要素の  
関連について 渡辺志伸（高松地方気象台）
5. 海上風観測精度と真風向風速計の概要  
梯 武浩，山中 浩，  
辻仲俊之（神戸海洋気象台）
6. 大阪湾・紀伊水道・KF線に至る平均的特徴  
南 秀人，隈部良司（神戸海洋気象台）
7. 1974年のウェッデルポリニアについて  
本井達夫（舞鶴海洋気象台）
8. 1986年3月23日の南岸低気圧に伴う  
天気について 田中正巳（神戸海洋気象台）
9. 1986年3月23日発達した南岸沖低気圧  
内気流系の解析 岸田和博（神戸海洋気象台）
10. 雷雨発生時における下層大気の特徴  
正木 明，楠田雅紀，  
秋山淳一（大阪管区気象台）
11. おろし風について  
黒良龍太，山岡英夫（神戸海洋気象台）

海洋気象学会との共催による例会は、昭和55年度から毎年1月に実施されており全国的にも数少ない異色のものです。今後とも「海洋と気象」という重要なテーマの解明のための場として益々発展することが期待されます。

今回の例会開催に当たりお世話になった神戸海洋気象台の関係官およびご協力頂いた両学会の会員各位に感謝申し上げます。



倉嶋 厚・鈴木正一郎 著

雲

小学館 159頁 1,200円

本書は自然観察シリーズの1冊として刊行されたカラー写真を主体として中学生や高校生にも理解できるようわかりやすい解説をつけた書物である。自然科学は教育でも研究でもまず自然の観察から始まると言われている。本シリーズはその主旨を生かした良書が揃っているが、本書もその例にもれない。

私は気象台に初めて勤務したときに、観測で一番むづかしいのが雲形や雲高などの観測で、これが正確にこな

せるようになれば一人前であると教えられた。教科書には10種雲形が載っていて、何となくわかったような気になるが、実際に空を見るとそう簡単ではない。

本書は雲の写真の一人者として著名な鈴木正一郎氏の美しい雲の写真が多数掲載されている。第1章を倉嶋氏、第2章以後を鈴木氏が簡にして要を得た解説を付けている。巻末に資料編として10種雲形表、気象衛星から見た雲（村松照男氏）、天気のことわざ（安田昌弘氏）、雲の写真撮影のポイント（鈴木正一郎氏）が付けられていて便利である。本書は、小・中・高の教育ばかりでなく、日頃雲の観察をする機会の少ない研究者にも役立つ。

（筑波大学 河村 武）